

志教育の 視点	☒ かかわる ・ ☐ もとめる ・ ☒ はたす
------------	--

活動名	地域伝統文化学習
教科・領域等	普通科・地域探究活動
活動学年等	普通科2年 希望者14名
ねらい	・大和町の吉岡地域に昔から伝わる島田飴を作る体験学習を通して、地域伝統文化への理解を深める。また、その伝承に努める意識を養い、深めることを目的とする。 ・島田飴づくりの講師をしてくださる地域の方々と触れ合い、コミュニケーションを重ねることでよりよい人間関係を築く力を養う。

【実践内容】

[志教育の視点]

はたす：地域に昔から伝わる伝統行事とそこで使われる島田飴を作ることで、伝統文化の貴重さやそれらを次の世代に引き継いでいく必要性を感じ、自分たちがその役割を担うということを認識させる。

かかわる：講師をしてくださる地域の方々とコミュニケーションを重ね、より良い人間関係を築く力を身につける。

[活動内容]

1 出前体験講座

島田飴祭り実行委員長の児玉金兵衛氏と島田飴づくりに関わっている地域の方々9名を講師としてお迎えし、体験型講座を実施した。生徒たちは、島田飴祭りや島田飴に関する歴史、飴の作り方について学習したのち、自分たちで島田飴づくりを体験した。

2 活動記録をまとめる

島田飴の歴史や作り方を教わり、それに対する感想や意識の変化についてまとめる。

生徒の感想例

- ・吉岡の伝統や飴作りのこだわりを自分たちで作ることによってより知ることができた。何より美味しく、料理に使っても変にならないように、お米の味が強い＆甘さ控えめになってるところにこだわを感じた
- ・伝統的な文化に触れる良い機会になれた。初めて飴を作って、とても楽しかった。なかなか買うことが出来ない飴を自分自身で作って、持ち帰ることが出来たこと。地域の人達との良い交流になった。
- ・ずっと気になっていた島田飴祭りという行事に少しでも貢献できたのかなと思った。

3 成果や課題

島田飴について詳しく知らない生徒が多く、その歴史を知ることで、祭りや島田飴といった伝統文化だけでなく、地域の方に興味を持つ生徒を増やすことができた。今後の課題としては、一人でも多くこのような活動を希望する生徒を増やすためにどのような取り組みをすればいいか検討することである。



志教育の 視点	☒ かかわる ・ ☐ もとめる ・ ☒ はたす
------------	--

活動名	地域インフラ研究
教科・領域等	環境技術科・課題研究
活動学年等	環境技術科3年
ねらい	・産官学民と協同し、インフラの老朽化という日本が抱える社会問題を学ぶ。また、その問題を地域の身近な問題として捉え、「橋」をテーマに地域の課題の発見と、その解決方法を考える。

【実践内容】

【志教育の視点】

はたす：大和町や地元企業、大学教員、地域住民との協力のもと、現地見学や維持管理実習を通して黒川地域の橋梁の維持管理について学び、地域の将来を担う人材の育成を図る。

かかわる：地域の方々とコミュニケーションを重ね、よりよい人間関係を築く力を養う。また、地域社会の期待を感じ、それに応えようとする姿勢を身につける。

【活動内容】

1 橋梁点検、橋梁清掃実習

住み続けられる街づくりを目指して、学校周辺の旧黒川郡4市町村（大和町、富谷市、大衡村、大郷町）が管理する橋を対象として、生徒主体型セルフメンテナンスとして、簡易的な点検及び予防保全活動として橋上清掃を行った。

2 橋梁模型作成実習

株式会社アイ・エス・エス、日本大学工学部客員研究員の浅野和香奈氏から「橋のペーパークラフト」工作の指導していただき、橋の構造や部材について学習した。また、ペーパークラフトの部材を数十組、組み立て小学校の夏休み自由研究講座に利用している。

3 橋梁学習会

〇・Ｔ・テクノリサーチ株式会社によるシュミットハンマーや鉄筋レーダーを用いた非破壊検査の体験学習を行った。また、大和町都市建設課による高所作業乗車体験で主桁の下側を見学した。さらに、大和町が建設している橋梁見学会に参加した。

」

4 成果や課題

産官学民の協力により、地域インフラ事業の在り方、橋梁の維持管理方法などについて、実践的な学びができた。高校生や地域住民にもできる長寿命化・維持管理の方法は、「地元の橋は自分たちで守ろう」という地域に根差した活動に発展することで、地域の一員として自覚を持つことにつながった。

